

平成 26 年 10 月 1 日

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの医療ボランティア活動レポート

愛知県鍼灸専門師会会員

坂光 信夫

当会会員の石川佳子先生と私は平成 26 年 9 月 12 日(金)から 23 日(火)までケニアに行き、ヴィクトリア湖近くの農村ゲム・イースト村にて 5 日間の医療キャンプに参加して参りました。医療キャンプは NPO 法人アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの主催で毎年 9 月に実施しており、2009 年のリサーチの旅から数えて今年で 6 回目となります。2 人ともアサンテ ナゴヤのメンバーで、石川先生が理事長、坂光は理事です。ケニアでの活動経験も今回で石川先生は 7 回目、坂光は 3 回目です。石川先生はゲム村以前にナイロビのスラムでの活動経験もあります。今回は医師 8 名、歯科医師 1 名、鍼灸師 2 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、スタッフ 3 名という体制で、日本人参加者は全部で 18 名でした。



ゲム・イースト村はニャンザ州というケニアの中でも最も HIV 感染率の高い地域に属しています。キャンプでは、普段医療サービスから隔絶されている村の人たちに医療を施しながら HIV 検査の受診を促し、HIV について啓発することを目標としています。検査で陽性判定の方については、現地の協力団体ルーネルドが引き継いでフォローします。私たち鍼灸チームもキャンプの目的に沿って、医師と協調して診療を致します。ケニアで 10 日以上も共に過ごすことで参加者

同士一体感を感じるものです。医師と鍼灸師がこのように親しく付き合う機会はお互いに得難いものと言えるでしょう。参加者の方々とお話し、治療を経験していただくことで、鍼灸についての理解を深めて頂きました。キャンプでの診療は肉体的にもハードで、体調を崩される方もありますので、治療は皆さんに喜んでいただけました。

ケニアにおいて鍼灸が受け入れられるのかを疑問に感じられる方も多いと思いますが、私自身も村の人たちにどう思われているのかよくわかりません。農村の人たちが鍼灸の情報に触れる機会は皆無ではないかと想像します。それでも活動を続けてきたことで次第に定着してきたようで、自ら鍼灸を希望される方も多かったようです。また医師の理解も得たことで内科や小児科から患者さんを紹介されることも少なくありませんでした。今年は 5 日間で 179 名の患者さんを診療させていただきました。これはこ

れまでで最高の数字です。

患者さんの殆どは農民です。腰に負担のかかる姿勢での農作業を続けていますので、一番多い主訴は腰痛で、それも大腸俞や腎俞よりも第五腰椎棘突起と仙骨の間から腸骨に沿って痛みを訴える方が殆どです。現地の方は腰をくの字に深く曲げて短い箒で掃除したりしていますので、一番の処方長い箒ではないかと真面目に思えるほどです。また頭に物を載せて長い距離を歩かなくてはならないことも多いため、身柱穴などに痛みを訴える方も多いです。



毎日農作業で身体を動かしている方ばかりですから、年配の女性でも背中中の筋肉がしっかりしているのも日本人との違いでしょう。内科や産婦人科疾患のある患者さんの場合、舌が真っ白であることもよくありましたし、栄養状態がよくないことで体調を崩していることも少なくないと推測されました。適切な医療を受けられず、放置されていることによって状態が深刻化しているケースも多々あります。

ゲム・イースト村では今年3月にコミュニティセンターが建設されました。センターの建設は当初より村の人たちが強く願っていたことで、アフリカ支援 アサンテ ナゴヤは昨年建設募金を行い、建設費の大半を寄付することができました。センターが政府に医療機関として認可を受けられれば、医療人員や薬剤などの支援が受けられますし、情報提供や啓発活動の拠点として活用することもできます。これらは村において大きな変化をもたらすものです。次はクリーンな水を供給できる深井戸の掘削を目標にしています。



ケニアに大きなお金を送り、割合短期間にきちんと工事がなされたのは、私たちの協力団体ルーネルドのおかげです。ルーネルドの創立メンバーは地域の HIV の問題、村の生活の課題を解決しようと奉仕的に取り組んでいる信頼のおける人たちです。ルーネルドとの出会いがあったからこそアサンテ ナゴヤの活動も継続できています。これはアフリカでは稀なケースだと思いま

すし、感謝しています。私の理事会での主な役割はルーネルドとの連絡で、eメールを通じて日々話し合いをしています。先方の要望を聞きながら、お金に関する事など私たちの考え方を理解してもらおう努力をしてきました。ルーネルドの窓口のダグラスさんとは親友のようなお付き合いができるようになり、とても嬉しく思います。



年に1回の医療キャンプでは自ずと限界があります。センターが完成したからと言っても、医療機関としてすぐに稼働できるわけではありません。鍼灸治療で痛みをとっても、翌日からの農作業でまた痛めてしまうだろうことは容易に想像できます。

予防医学でもある鍼灸を活用して何かできないか模索する中、イギリスの鍼灸師のチャリティー団体 **MOXAFRICA** のことをネットで知り、コンタクトを取ってみました。**MOXAFRICA** はウガンダと南アフリカにおいて薬剤耐性結核の患者に直接灸を教えることで、薬の激しい副作用を軽減し、**QOL** を向上させる試みをしており、ウガンダのマケレレ大学と共同で臨床試験にも着手しています。私は今春渡英し、**MOXAFRICA** の理事メンバーと会って参りました。理事の1人で在米日本人鍼灸師の方が今年の全日本鍼灸学会学術大会のために来日された際には、アサンテ ナゴヤの理事会にもお招きしました。

現地では **MOXAFRICA** に倣って少人数のヘルスワーカーにお灸を教える試みをしました。ヘルスワーカーから患者さんにお灸を伝えてもらうことで継続的な活動が可能になるという考えからです。ダグラスさんは職業的 HIV カウンセラーで、私の計画に大いに賛同してくれました。事前にeメールで何度もやり取りをして、キャンプ中のワークショップに臨みました。村の人たちにとって、安価で自分でできるお灸は大きな魅力です。日本では痕が残ることで敬遠されがちな直接灸ですが、医療へのアクセスが極端に制限されている人たちにとっては事情が異なります。そうしたことをよく理解している現地のヘルスワーカーの皆さんはとても熱心に受講されました。今後の展開を楽しみにしています。



ヘルスワーカーの皆さんはとても熱心に受講されました。今後の展開を楽しみにしています。

石川先生は活動の当初より小児鍼を伝えることに尽力されてきました。今回もキャンプ中に小児鍼のワークショップを開催されました。小児科より回ってきた中にはくる病を思わせるような重度の脊椎湾曲の子ども、3階から落下して一命を取り留めたものの半身

麻痺になっている赤ちゃんなど重症患者も含まれていました。そうした子どもを持つお母さん方はわずかな希望にすぎないように小児鍼を真剣に学んでいらっしゃいました。奇跡を待つようなことかもしれませんが、お母さん自身でできることをお伝えすることは意味のあることだと思います。

私たちのできることは限られていて、そんなに大きなことはできません。それでも活動を続けていく中で少しずつ変化を感じます。今年は自ら HIV 検査を受けたいと申し出る方が何人かいらっしゃいました。HIV がタブー視され、差別の対象となっている地域においては画期的なことです。

私は開業鍼灸師として日々診療を行っています。1人で仕事をしていることの閉鎖性を感じていました。そんな中、石川先生のおかげでアフリカ支援 アサンテ ナゴヤの活動に参加することができ、縁あって理事会メンバーとして加えて頂いたことに感謝しています。こうしたボランティア活動に限らず、出会った方に治療をして差し上げられる技術を持っていることは、私たち鍼灸師の特権ではないでしょうか。鍼灸技術のおかげで私はアフリカに行くことが出来て、現地の方の役に立つことができます。そのことで観光旅行では得られない体験、友情が得られました。活動には様々な困難がありますが、今後でもできるだけのことを続けていきたいと思っています。



アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの活動にご興味のある方は以下のリンク先をご覧ください。

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ ホームページ <http://asante-nagoya.com/>

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ facebook ページ <https://www.facebook.com/asante.nagoya>